

2025 年度

ニチキッズ南まるやま保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2026年1月5日（月）～1月30日（金）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し、自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2025年2月9日（月）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化して改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	『おもいっきり遊ぶ』『おもいっきり学ぶ』のために、個々の想像性や気づきに柔軟に対応していける環境設定、準備に留意した。STEAM 活動も取り入れ、多くの経験から豊かに学び取れるように、実践を通して子どもの姿を捉え、子どもたちの最善の利益を意識した保育を目指した。
子どもの発達援助	各機能の繋がりを捉え、日々の活動の中で生活に必要な力を育めるように工夫をした。担任だけではなく、全職員が子どもに関わり園児理解を深め、多方面からの支援に心掛けた。年齢的な臨界期と個別発達を鑑みて、ご家庭にご理解ご協力を頂きながら、適切な援助に努めた。
保護者に対する支援	目に見える親子関係だけではなく、家庭全体を捉えるよう努め、配慮した声掛けや支援を行えるよう心掛けた。日々の子どものエピソードや行事での姿を通して、子どもの成長を共に感じ、喜び合い、不安があれば受け止め、一緒に考えていける関係性づくりを目指した。
保育を支える組織的基盤	保育園としての方向性、留意点を明確にすることで、職員による個別判断、個別対応を防ぎ、公平なラインの提示に心掛けた。又、誤発信があったときは速やかに対応をして混乱しないよう心掛けた。園として目指す組織づくりを、折に触れて発信することで、職員が歩み寄り、協力しながら、保育の充実を目指すことが出来た。施設長の観点から多角的に考察し、客観的な判断の下、将来を見据えた運営を目指した。

総評
<p>今年度は、乳児クラス幼児クラスの両方で新しいお友達が増え、前年度以上に豊かなかわりが実現した。クラス別保育を土台として、異年齢の保育形態も取り入れながら、年齢別保育の保障、集団としての育みに向けて環境を整えた。合同保育では、同年齢での遊びに終始してしまい、関係性の広がりが見られないこともあったが、運動遊びや段ボール遊びなど、ダイナミックな遊びを展開させワクワク感を異年齢で共有できるよう工夫した。朝の合同遊びでは、廊下の空間を工夫した遊びを提供できた。今後も子ども達が期待感をもって、伸び伸びと活動できるよう遊びの展開を考えていく。前年度からの職員も多く、保護者様との信頼関係の下、継続した保育が出来たことは園児の安定につながった。地域との連携では、新しい試みとして、「緑丘小学校での子育てサロン」が開催され、年長児が毎回参加することによって、小学校とのさらなる連携につながった。今後も継続して、地域に開かれた保育園を目指していく。子ども同士が更に切磋琢磨して育ちあえるように、園児を定員数確保すること。そして、職員の増員を行い、『子育て支援の充実』を通して、社会貢献をしていく事が今後の課題である。</p>